

中央大学工学部電気工学科

同窓會々誌



1986—10

23号

中央大学校歌

石川道雄 作詞
坂本良隆 作曲

一、 草のみどりに風薫る

丘に目映まばゆき白門を

慕まい集へる若人が

真理まことの道にはげみつゝ

栄ある歴史を承け伝う

あゝあゝ中央、我等が中央

中央の名よ光あれ

二、 よしや嵐は荒ぶとも

揺がぬ意気ぞいや昂く

春の驕奢まごりの花ならで

みのりの秋やめざすらむ

学びの園こそ豊かなれ

あゝあゝ中央、我等が中央

中央の名よ誉あれ

三、 いざ起て友よ時は今

新しき世のあさほらけ

胸に血潮の高鳴りや

湧く歌声も晴れやかに

自由の天地ぞ展けゆく

あゝあゝ中央、我等が中央

中央の名よ栄あれ

目 次

表 紙	1
中央大学校歌	2
目 次	3
会長あいさつ	黒崎勝吉 4
期待と不安	29年卒 平岡浩司 5
中年と呼ばれる年代になって	35年卒 須田正方 5
仕事の話あれこれ	39年卒 天野浩志 6
卒業20周年を迎え	41年卒 富田紘志 6
自動車とエレクトロニクスについて	47年卒 足立正博 7
THE SHAKAIJIN	61年卒 的埜千絵 7
故北村覚一先生を偲ぶ	遠藤正雄 8
昭和60年度総会懇親会スナップ	10
昭和60年度総会・懇親会開催さる	13
昭和60年度会計報告	13
新入生 236名を迎えて	14
41年卒業の同期会開催さる	14
昭和60年度理工学部就職状況について	15
編集後記	18
昭和61年度総会・懇親会開催会場案内	19
昭和61年度総会・懇親会を開催します	20

会長あいさつ

黒崎勝吉

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝で御活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

昭和60～61年と厳しい経済環境が続いております。62年もどのようになって行くのか不安材料が多く、大手企業の新卒採用については、極めて慎重に対応する姿勢を示している状況下にあります。過日、大学側に新卒求人状況について聞いてみました所、電気科新卒生の求人は、御蔭様で良好に推移しているとのことでした。

中央大学・電気科は創設37年になります。その間巣だって行った卒業生の皆様が栄々と努力され、築き上げられた実績が、社会に認められてきたことも大いに貢献しているものと考えます。大学側に御努力願うことは当然としても、我々卒業生も社会的知名度の向上と母校の発展のために、大いに活躍していこうではありませんか。

同総会総会の場合は、自分が働いている環境と異なった場で活躍されている他業種の方々と、情報交換を自由に出来る格好の場であろうかと思えます。この場を通じて、先輩・後輩・同僚が協力しあって、益々発展される様、年に一度の総会の場合を、有意義に御利用して戴きたいと思えます。

新入会員は、従来、卒業する時に入会手続きをしておりましたが、61年度からは諸先生方の御協力を得まして、1年生の時に同総会の説明をして戴き、入会手続きが出来る様になりました。これによって、会員数も今まで以上に安定した増員が図れることと、同総会事業計画にも前向きに対応出来るものと、大きな期待を寄せています。

電気科同総会の益々の発展及び運営が出来ますよう、皆様方の御理解と御協力をお願い申し上げます。



左 会 長
右 寺島氏



期待と不安

29年卒 平岡浩司

舞狂う花吹雪を起しながら、期待と不安の交錯した私を乗せた阪急電車は塚口へと走る。あれから30年を超える歳月が、喜怒哀楽を乗せて過ぎ去った。何故か

卒業、入社の前後は今も色鮮やかに眼に浮かぶ。

名古屋で22年、福岡で4年半、香港で4年半、そして再び名古屋で1年の会社生活を送りながら、入社当時の期待と不安の交錯から大きく抜け出すことの出来ない自分を見る。

来し方を振り返って見ると自分なりに完全燃焼したと言える時期が何回かあった。仕事が好きで、大きな成果が上り、そして疲れを覚え、更に人的交流の輪の広がった時期である。しかし、その入口には常に大きな期待と不安があった。そして、その後は何がしかの人的成長があったのではなかったかと思っている。

最も大きな期待と不安は、香港の販社勤務の申し渡しを受けた時であろう。いや、最も大きな不安と云った方が良いかも知れない。現地に赴いて、経済環境は作るべきもないが良い経営環境……良い市場、良いお客、良い同僚……を作るのは私の仕事とこれから始める事にした。幸い、三菱電機も現地会社オーナーも私に全てを任せてくれた。風土、社会的業務的慣習の違いに途惑はあったが、言葉の壁を乗り越えて、陰に陽に助けてくれたのは現地の人達であった。言葉は不十分であってもお互いの気持が通じるのである。不安が期待に変わり、そしてある種の自信に変るのにそう時間はかからなかった。だから顧客、同僚を含めた香港の関係者に対する厚い感謝の気持は、これからも増えこそ

すれ減ることは無いであろう。

不安は学ぶ事に通ずる。不安があった為香港では経営を含めて多くの事を学んだ。

私の進歩が止まるのは、心に慢心の芽生える時と自戒している今日此頃である。

中年と呼ばれる年代になって—

35年卒 須田正方

学窓名簿を見て先輩諸氏、後輩の多くの人達が広く各界で活躍されている様子に触れ、又小さな組織の中でさえ、いつの間にか先輩を数えるよりも後輩を数える事の方が難かしくなった事もあって、学窓を離れ既に四半世紀を経た感慨を深くしている。

幸運にも高度成長時代に実社会へ飛び込んだ私達の世代も夫々の障壁を乗り越え今日を築いている訳で、現在に較べて特別に楽な環境にあったものでもない。

唯最近気になっている事に、“新人類”なる新語が生まれ、実社会で功成り名を成した実年齢もしくはそれより上の世代が、比較的クールな感覚をもって実社会へ出て来る後輩達を、恰も諸先輩の指導、教育とかけ離れた環境で育った世代であるかの如く、将来を託すに不安だとする意見が紙面を賑わしている事がある。

それは学生だけでなく実社会で生活している若い世代も、マスコミによる隘れるばかりの情報で実社会での諸先輩の生活や考えを見聞きし、それ等の知識を参考にして、良しにつけ悪しきにつけ吾身の処世術を育んでいる訳で、実社会の現実とかけ離れたメディアに浸った形で生まれ育つ事などある筈がなく、家庭での親を含めた先輩達の言動のどこかを真似た結果が彼等の言動の因であると云うべきで、将来の不安の種はむしろ

る先輩世代の責任に帰すと考えられるのに、その責任の所在があいまいであるのが気になって仕方がない。

あれこれ考え、これ迄の吾身の処生術への自省の念を含めて新入社員の企業内教育のカリキュラムでは、本論の他に、社会生活の中では、全ゆる事に“何故そうなのか、何故そうなるのか”をいつも考える事が大切だと云う事にしている。

(日本サーボ・特許部)



仕事の話あれこれ

39年卒 天野浩志

昨今の円高不況に直撃されている電子部品業界で、生産技術部門に身を置く者として厳しい毎日を過ごしております。

生産技術的な視点で円高問題を考えるならば、適切な商品（過剰品質でなく仕様基準を満たす均質な商品）を、少ない材料費（高歩留まり）で、人手をかけず（省力化・無人化・FA化）、安価な設備により、短時間に大量に生産できる手段を、いかにタイムリーに提供できるかと言えるのではないのでしょうか。

省力化・無人化されたタクト・タイムの短小・高稼働率の設備を安価に短期間で開発することの困難さは、そのシステムが複雑である程、増してくるのは自明のことです。

現在、当社の主力商品であるアルミ電解コンデンサーを、よりコスト・ダウンして生産する為に、前述の機能を備えた新システムの開発を行っておりますが、機能を高めれば設備原価が高くなり、両者のバランスを勘案しながら高機能を実現させる手法を見出すべく苦慮しております。

最近、特に感じることは、コンピュータの利用が、FA・LA・OAを問わず、ごく当たり前になっているにも拘わらず、センスの良い良質な技術者（ハード・ソフトの両方をこなせる）を養成することの難しさです。

ここで言うセンスが良いとは、イレギュラーな操作、常識では考えられない様な入力情報やタイミング等に柔軟に対応できるシステムを作り、しかもソフトの冗長度が小さいという事だと思います。即ち、いかに何処までユーザー側の立場でシステムの開発が出来るか否かで決まると考えています。

日本ケミコン株式会社
生産技術部制御課長

卒業20周年を迎え

41年卒 富田紘志

卒業して今年は満20年、早い事矢の如し。12月誕生日を迎え満44才になる。卒業の頃23才、その頃今の自分と同じ年輩の人に接した場合、大変立派な大人と感じたと思う。私は人生100年の夢を描いている。40、50は鼻たれ小僧と云われる。これからこそやり甲斐のある将来にしたいし、その為にも益々の精進もせねばと思う。日本は先輩の努力のお蔭で世界の大国となったし、経済的にも物質的にも本当に恵まれて来た。これを考えると御苦労された先輩先達に心から感謝を捧げたい。今度は我々の世代が今迄の報恩に努力し、高令者が幸せな生活が出来るよう、又、後輩の人達の為にも素晴らしい生き甲斐の有る社会にすべく努力する事が我々の使命であり生きる道であり、これが我々の生き甲斐となると確信する。

卒業20周年を記念して同期会を開催すべく有志幹事でその準備を行っているが、名簿作りの中で、仲間の諸氏は、専門の電子電気業界だけでなく、医師、弁護士、会社経営、美容界、政治界、学術、教職、政府機関その他あらゆる分野で活躍されている事を知りました。同期の仲間の一人として大変心強く、嬉しく感じます。同期会は8月23日(土)赤坂の麹町会館で恩師を迎え約50人が懐しく集る予定である。20年振りで顔を合せ旧交を温め楽しい同期会である事が期待される。母校電気工学科のレベルは最近高いと聴く。ハイテク技術革新の時代、特にエレクトロニクス、通信技術の急進には目を見はるものが有る。若い力が益々期待される。我々は後進の人達が大いに活躍出来る道をつけたい。

末筆乍ら同窓会員の益々の御活躍と御多幸を心より祈念致します。そして同窓会の充実と活発化を心から期待致します。以上20周年を迎え一勝手な事を記しました。

自動車とエレクトロニクス について

47年卒 足立正博

入社した時は、インテル社から4ビット1チップCPU ICが発表された頃でした。入手したてのCPU ICを前に皆が心をワクワクさせて何かおもしろいことに応用できないかと検討を始めようとしていた、そんな時期でした。それが今では燃料制御装置、デジタル式メータ、アンチスキッド装置、電子トルコン装置等々、ワンチップCPU ICを応用した装置が実用化され、一台の車の中に幾つものCPU ICが使用されています。現在も、さらに安全で快適な車を目指して各種装置の開発や、さらにはIC素子そのものの開

発まで巾広く進めております。

一方、工場に於ける車生産の場では、ご存知のようにロボットを大量に導入し自動化を進めております。今後さらに自動化を進めていくためには、視覚センサや触覚センサ等を応用し、ロボットの知能化を進めていく必要があります。

この様な開発を成功させる一つのポイントは、素材メーカーや部品メーカーさらには設備工事会社等との連携をいかにうまくとるのかにかかっているのではないかと感じています。又、この様に多くの開発を進めるため、電気工学科からさらに多くの後輩を送り込んでいただけるようお願い致します。

日産自動車(株)
電子技術部

THE SHAKAIJIN

61年卒 的埜 千絵



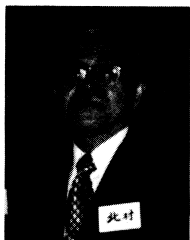
来週の今日、私は社会人になる……。ずっと前からわかっていた事なのに、あまりに突然のように感じ、信じられない、信じたくない!そんな卒業式から既に4ヶ月が過ぎようとしている。今、私は社会人となり、毎朝決まった時間に起き、家を出て、夜は翌日のために遅くならないように気をつけている。

今、朝の7時45分。場所は、松下通信工業電子計測事業部技術部第5設計室の私の机。机の上には、インテルの8085入門とステップモータ、その他の本、壊れたモータとドライバー。机の前の私は学生の頃より、ずい分と勤勉である。(と思っている。)大学の限りに間にあうことの方が珍しかった私が今では7時25分には机の前に座り、のんびりと60円の自販機のコーヒーをすすりながらこのようなものを書いている。(ちなみに掃除は当番制。)

卒業してから何度か大学の頃の友人とも会ったが、みな妙な落ちつきをもった話し方をするようになっていた。“僕は一人前の社会人なのだ。”と周囲に知らしめようとしているかのようなその態度こそが、“新入社員!!”特有のものであることに気が付いていない筈はないと思うのだけれど……。

そういえば、前は毎日乗っていたバイクも、このところずっとサンデーライダーで、それも警察から表彰されそうな安全運転である。“もしケガして明日から会社へ行けなくなったら大変!”と、いつの間にか考えてしまうのが、ちよっぴりつまらないTHE SHAKAIJINの戯言もこのへんで終わりにしよう。

勤務先：松下通信工業株式会社



故北村覚一先生を 偲ぶ

遠藤正雄（理工）

北村先生宛の書類も大分たまったので、ご自宅にお届けしたのは3月29日の午後のことである。学会関係の書類に目を通されながら「〇〇委員会の委員長を交代するよう連絡して欲しい……」と何件か頼まれてお別れした。

早速指示された方々に電話をすると、ある委員会の幹事の方は「北村先生は偉い先生であるから病気が回復されるまで一応代理を勤めることにしたい」という返事であった。学会関係者の話によると北村先生は非常に真面目に学会の仕事をしておられたようで、その性格がにじみでているように思われる。

しかし、先生のお考えは、大学の研究・教育が第一であり、これに支障があってはならないということであり、学会の仕事で大学の業務をさぼることは慎まなければならないと常々言っておられた。このように非常に厳しい自己規範のもとに行動されてこられたことは大学教育者として誠に尊敬の念にたえません。また学会活動・研究・教育活動に対する厳格なまでの考えと実践は我々私学教育にたずさわる者にとってその両面からの大きな警鐘ではないかと思われる。

一方、自己規制の強さは同時に他人にも厳しくなる面もあったように思われる。私などは若げの至りだったなあと思うことが多々あり、今となっては懐かしい思い出とさえなっている。

さて先生が工業技術員電気試験所から中央大学に赴任されたのは丁度20年前であった。理工学部校舎が水道橋から現在地に移った直後である。その間先生は半導体デバイスとその応用の専門家として学会でもその方面の指導的役割をはたしてこられた事は先に述べた通りである。大学内にあっても長老として円熟期だったのに急逝されたことは我が理工学部のみならず、学会・産業界にとっても大きな損失であり、誠に残念である。ここに敬愛の念を捧げつつ、御冥福をお祈りする次第です。

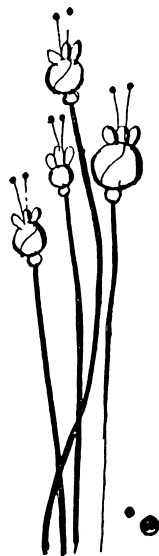
先生が滝山から現在のお宅に引っ越してこられてから何度かお邪魔するうち、たまたまSPレコードの話となり頂戴してきた。その中に、ほとんど針をかけていないベートーベンの第六、第九などもあり、大喜び

したことを今さらのように思い浮べ、有し日の北村先生を偲び、追悼の言葉といたします。

理工学部教授北村覚一先生は本年4月12日0時50分腎不全のため、小平市昭和病院で逝去。63才。

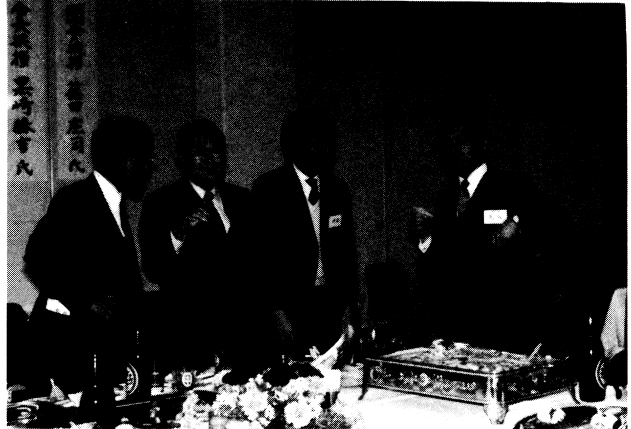
〈略歴〉

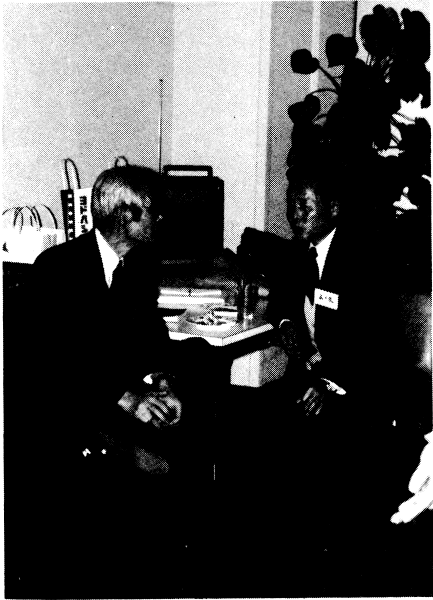
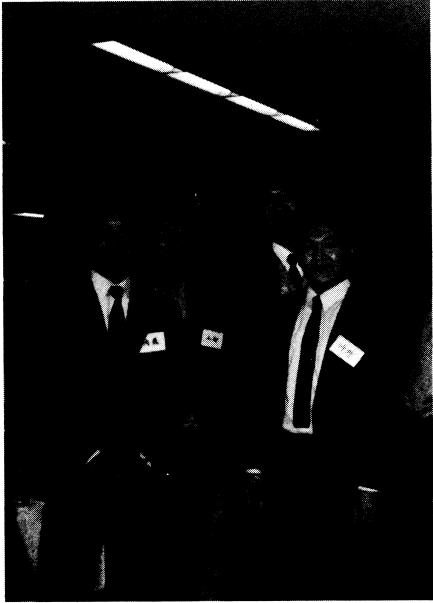
北村先生は大正12年2月25日長野県松本にお生れになり、昭和15年4月松本高等学校入学、同17年10月東京大学第一工学部電気工学科入学、同25年大学院入学。同28年12月より29年3月東大専任講師、同29年4月通産省工業技術院電気試験所通産技官、同41年4月中央大学理工学部教授赴任。



昭和60年度総会懇親会スナップ







昭和60年度総会・懇親会 開催さる

昭和60年度総会懇親会は、昨年11月2日(土)午後5時～8時、母校理工学部5号館地階食堂において教員を含めて90名が参加して開催されました。黒崎会長のあいさつに続いて、豊田理工学部事務長にごあいさつをいただき、会務会計報告(志村常任幹事)のあと第1回卒業で前副会長の竹中氏の音頭で乾杯したあと懇

親会にうつり、大類先生はじめ出席いただいた先生方を交え終始にぎやかに進行した。

最後に校歌を斉唱し堀中副会長の閉会のあいさつで会を閉じた。なお、中央大学百周年記念としてつくりました手拭を参加者に1本ずつ配りました。

昭和59年度会計報告

9月3日監査を受け、総会において承認されました。

★収入の部

前年度よりの繰越金	3,235,376
59年度総会会費	585,000
預貯金利息	254,584
名簿売上代金	0
終身会費	1,090,000
寄付金	0
広告料	43,966
計	5,208,926

★支出の部

59年度総会費	523,050
通信及び印刷費	581,570
アルバイト代	29,460
事務・運営費	89,300
名簿関係 印刷費	30,000
通信費	0
アルバイト代	31,075
事務費	0
慶弔費	2,590
記念事業費	0
次年度繰越金	3,921,881
計	5,208,926

——新入生236名を迎えて——

昭和61年度の電気工学科1年次の入学者は1部188名、2部48名 計236名です。

新春4月3日(木)、遅く開花した桜満開の理工学部校舎において61年度の入学式が挙行されました。本年度より、半期間を多摩校舎にて授業を受けることになり、電気工学科の学生は前期間八王子校舎に通うことになりましたが、後期には元気に理工学部校舎に戻れるよう祈ります。

さて、本年度より同窓会の入会金、終身会費(5千円)を1年次に納めていただくことにしましたが、その手続きを済ませられたみなさんをここに紹介します。なお、11月8日(土)の懇親会には、準会員として出席してもらい、先輩諸君と歓談していただきますので、先輩各位におかれましては、経験を生かして大いに激励していただきたいと思ひます。

入会手続きされた新1年生(敬称略)

島田 了、染谷 孝、井森 修、鈴木真吾、西来路正明、堀口圭介、関野 豊、後藤和明、齊藤誠一郎、折山 聡、石田和之、林 昌之、有賀雄一、直井裕一、

今井聖支、西 健司、益子龍太郎、鍋田信之、浦田浩之、廣瀬真二、高林忠史、萩原夕子、倉持勇紀、有馬克巳、上村和広、橋本恭男、田辺裕美、柴田智康、田代正憲、仲川智雄、関 誠司、樋尾昌秀、久後仁毅、谷内田明洋、種植圭司、近藤 豊、佐藤貴彦、赤川博之、堀口英樹、白石康寛、荒畑成雄、新井充壽、大川伸、信太秀巨、川島哲哉、原田淳一、松木重雄、厚海広道、原田淳之、細矢 博、小笠原直樹、熊井康二、江口功一、田部智彦、廣瀬慎一、是枝寿夫、平山和宏、山崎 進、鈴木善之、小野田修二、吉川高広、保科守彦、宮崎圭史、小林秀行、鈴木高秋、古市啓樹、板敷泰平、下野主税、山下俊明、鈴木雅彦、杉山弘幸、岸岡伸和、鳥巢正義、若木博之、鬼塚英明、金 仁浩、茅根吉貴、菅野満昭、AND I SANETYO、吉原清人、本山信明、関 永人、東島博之、小仲井 彰、前田憲繁、佐藤敏郎、上原 孝、佐藤国憲、吉岡幸彦、小川浩史、間部慎太郎、横森郁夫、山田浩史、長谷川博、上岡清孝、南方 大、鈴木貴志、笠原秀紀、阿曾和明、加藤光徳、苗村一雄。以上101名

41年卒業の同期会開催さる

去る8月23日(土)、東京麹町の麹町会館において、卒業して20年となった41年卒業の1、2部合同の同期の会が盛大に開催されました。開催するに当たっての準備、氏名住所、勤務先等の確認や会場の設定と、世話役をつとめられたみなさんのご努力はなみなみならぬものであったと思ひます。就職先が今日のようにでなかった時代にさがし当てたように就業した苦労によって、

それぞれ企業の中核的立場にあるのは、誠に遅しくもたのもしくも感じました。今後は仕事の締めくくりの時代だと思ひます?が大いなるご活躍を期待します。なお、当日出席された先生方は、大類、吉久、福沢、深井、小林(健)、猪狩、遠藤、市川の各先生です。全出席者は66名でした。

昭和60年度理工学部 就職状況について

業側の厳しい対応にもかかわらずよい成果を挙げることができたと就職部では話しております。就職希望者980名がすべて就職したことになる。

昭和61年3月卒業生に対する企業からの求人件数は、最近数年の一般企業への就職状況は次のようであり、60年3月卒業生よりも226社増の6012社であった。企業ます（中大広報部発行“ちゅうおう”1986-No4から）。

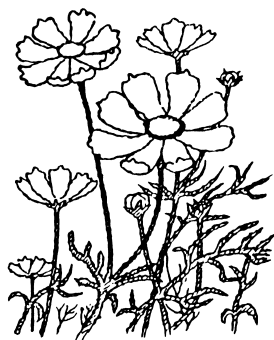
会社名	資本金	数	物	土	精	電	化	管	60年	59年	58年	57年	56年	55年	54年	53年
東芝	1393.5	3	1		4	7	4	6	25	20	17	17	13	9	1	1
日本電気	1028.6	2	2		2	7		7	20	18	14	15	16	11	6	6
三菱電機	1132.3	2			5	7	1	4	19	14	12	9	6	2	1	1
富士通	1007.9	4	1		3	4	2	5	19	20	9	12	10	9	5	2
リコー	269.8		1		4	7		6	18	19	13	6	9	4	2	1
沖電気工業	284.1	1	2		2	3		5	13	13	14	12	6	8	7	0
日立製作所	1403.1		1		2	5		4	12	14	8	5	5	5	2	1
キャノン	278.9	2	1		3	1	2	2	11	11	9	9	9	7	1	1
松下電器産業	892.0		1			5		4	10	8	6	1	4	8	2	1
本田技研工業	553.1				6	4			10	9	6	10	19	9	3	0
富士電機	288.4		1		5	3		1	10	2	3	2	5	0	0	0
トヨタ自動車	1269.5		1		4	4			9	7	6	4	4	2	0	0
ソニー	118.8		1		2	5		1	9	5	3	5	7	5	4	2
日産自動車	1124.7				5	3			8	4	4	10	7	8	6	1
マツダ	519.5		1		4	1		2	8	7	8	0	3	2	0	0
シャープ	504.0	1	1		1	2		3	8	5	0	2	4	4	1	0
キャノン販売	166.1				2		1	4	7	4	1	1	1	0	1	0
バイオニア	157.7				2	3		2	7	2	8	1	10	8	3	2
オリンパス光学工業	130.5				4	2		1	7	4	4	2	0	2	0	2
カシオ計算機	107.7				2	3	1	1	7	10	6	4	1	2	5	3
富士ゼロックス	100.0	1			2	1	1	2	7	9	11	5	6	9	2	0
コンピューターサービス	88.2		2	1			2	2	7	13	14	12	8	7	9	2
池上通信機	47.1		1		2	4			7	5	7	5	3	3	2	3
日本アイビーエム	1098.3	2			2	1		1	6	8	1	1	2	1	0	1
三菱自動車工業	351.7				6				6	1	0	0	1	1	1	0
凸版印刷	293.2	1	1		1	1	2		6	7	3	3	2	2	1	0
セイコー電子工業	10.0		1		4	1			6	2	4	4	6	3	0	0
東京電力	6500.0			2		3			5	4	3	3	4	7	4	1
日興証券	726.7	2						3	5	7	1	2	2	1	0	0
日本精工	247.4				3			2	5	2	2	0	0	0	0	0
アルプス電気	192.6		1		2	1		1	5	3	6	3	2	2	1	2
鈴木自動車工業	148.6				2	3			5	3	0	3	3	1	2	1
インテック	117.2	1		2				2	5	7	6	8	0	1	0	0
松下通信工業	78.5					5			5	3	1	1	2	0	0	0

会 社 名	資本金	数	物	土	精	電	化	管	60年	59年	58年	57年	56年	55年	54年	53年
岩 崎 通 信 機	56.1				1	3	1		5	2	1	5	4	3	0	0
パ ナ フ ァ コ ム	10.0			1		2		2	5	6	0	0	0	0	0	0
諏 訪 精 工 舎	9.0				3		1	1	5	5	3	2	0	0	1	0
日 本 電 信 電 話	7800.0			1		3			4	6	3	4	2	4	2	1
大 和 証 券	698.1	2						2	4	4	1	0	0	0	0	0
山 一 証 券	638.0	2			1			1	4	2	2	0	0	0	0	0
日 本 電 装	349.3				1	2		1	4	3	3	4	3	4	1	0
大 日 本 印 刷	320.8		2		1			1	4	1	1	4	7	11	3	1
日 本 ビ ク タ ー	118.3				1	3			4	6	9	6	7	7	2	1
東 京 エ レ ク ト ロ ン	88.4				2	1	1		4	5	3	0	0	0	3	0
立 石 電 機	85.4				2	1		1	4	1	1	0	0	0	0	0
山 武 ハ ネ ウ エ ル	42.0				2	2			4	3	0	3	5	2	0	0
日 本 ユ ニ バ ッ ク	36.8				1		1	2	4	5	1	5	2	2	1	0
日本電気ホームエレクトロニクス	28.0					4			4	1	4	3	1	2	0	0
川 崎 重 工 業	665.5				3				3	0	0	0	0	0	0	1
石 川 島 播 磨 重 工 業	649.2				3				3	1	1	0	1	3	0	1
三 洋 電 機	614.7				1	1	1		3	2	1	2	1	3	2	0
清 水 建 設	357.0			1		2			3	2	3	2	3	2	3	1
三 井 造 船	348.6	1		1		1			3	2	0	0	0	2	0	0
富 士 重 工 業	247.6				2	1			3	2	1	0	0	0	1	0
東 京 電 気	180.4					2		1	3	6	5	1	0	0	2	0
シ チ ズ ン 時 計	143.3				2		1		3	4	3	0	1	1	0	0
ク ラ リ オ ン	130.0				1	2			3	2	4	2	1	1	0	0
ブ ラ ザ ー 工 業	127.5				1			2	3	3	1	0	2	0	0	0
横 河 北 辰 電 機	122.7				2	1			3	0	0	1	2	2	0	0
サ ン デ ン	104.9	1			1			1	3	1	0	0	0	0	0	0
日産ディーゼル工業	98.7				3				3	2	0	1	1	5	2	0
太 陽 誘 電	88.5						2	1	3	3	0	0	0	1	1	1
ス タ ン レ ー 電 気	71.4				1	1		1	3	6	5	2	2	3	2	2
光 洋 精 工	70.1				3				3	0	0	0	1	0	0	0
日 産 車 体	69.3				1	1	1		3	2	1	1	1	1	1	0
日本航空電子工業	61.7				1	2			3	2	3	5	4	2	1	1
日 本 ケ ミ コ ン	60.4				1	1	1		3	4	4	3	1	0	0	0
T D K	60.0	1			1	1			3	2	5	2	4	1	1	0
デュボンジャパンリミテッド	60.0					2	1		3	0	0	0	0	0	1	0
日 本 無 線	55.0					3			3	2	4	2	4	2	0	0
ホ ー ヤ	52.5				1		1	1	3	6	1	0	0	1	4	2
日 立 精 機	50.6				1	2			3	4	0	2	0	0	1	0
共 同 印 刷	45.1						1	2	3	2	1	1	0	0	1	0
ユ ニ デ ン	43.3		1		1	1			3	4	1	1	1	1	0	0

会社名	資本金	数	物	士	精	電	化	管	60年	59年	58年	57年	56年	55年	54年	53年
東京計器	38.5				1	2			3	2	2	0	1	1	1	0
アイワ	38.0		1		1	1			3	0	2	1	0	0	1	1
ミツミ電機	20.1				1	1		1	3	5	1	1	2	9	0	1
鹿島道路	15.0			3					3	0	1	1	1	1	1	0
松下電送	15.0				1	2			3	3	4	0	0	0	0	0
日本ビジネスコンサルタント	12.0			2	1				3	1	7	4	0	1	4	2
トヨタサッシ	11.4				1		1	1	3	0	0	1	1	0	0	0
大和コンピューターサービス	5.0							3	3	2	0	0	0	0	1	0
中里建設	2.1			3					3	0	2	0	0	0	0	0
日立超LSIエンジニアリング	1.0					2	1		3	4	0	2	0	0	0	1
東芝オーディオビデオエンジニアリング	0.5				1	2			3	2	1	1	2	0	0	0

理工学部 規模別就職率推移





編集後記

○お詫び

名簿の整理が遅れて印刷ができない状況にあります。

申し訳ありませんがもうしばらくお待ち下さい。

○今年の就職状況はよくないようです。在校生諸君に

激励または参考になる言葉を送って下さい。

発行 中央大学電気工学科同窓会

〒112 東京都文京区春日 1-13-27

(電) 03-813-4171 (内)531

編集人 市川友之

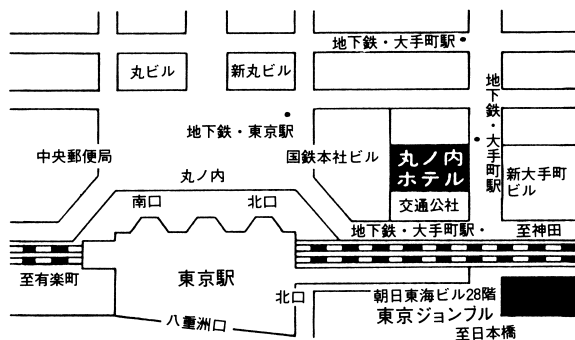
印刷所 エース工芸株式会社

〒354 埼玉県富士見市鶴馬2589

電話 0492 (51) 1305

昭和61年度総会・懇親会開催会場案内

東京駅丸ノ内北口
東京丸ノ内ホテル



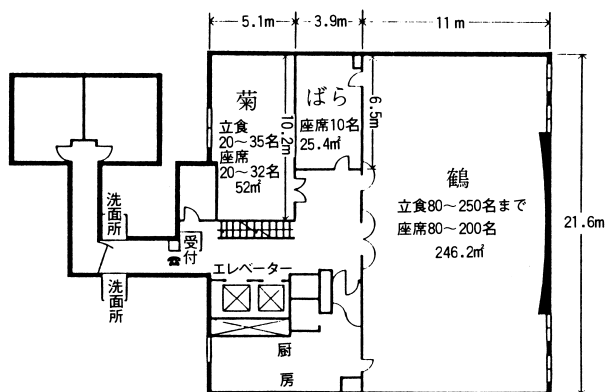
- 国 鉄 東京駅丸ノ内北口……徒歩 2 分
- 地下鉄 東西線・大手町駅……徒歩 1 分
丸ノ内線・東京駅……徒歩 2 分
千代田線・大手町駅……徒歩 5 分
都営 6 号線・大手町駅……徒歩 5 分

●お問い合わせは

宴会受付 TEL: (03) 215-2151 内線851

直通: (03) 287-1280

9階宴会場



昭和61年度

総会・懇親会を開催します

期 日 昭和61年11月8日(土)

午後6時～8時(受付5時30分)

会 場 東京丸ノ内ホテル 鶴の間

(東京駅丸ノ内北口 日本交通公社本社トナリ)

前頁を参照して下さい。

会 費 会 員 7,000円

61年卒業生(新入会員) 5,000円

61年1年入学生(準会員) 4,000円

同 伴 者 (家 族) 4,000円

◎ご出欠席の返事は、同封のハガキにて、10月25日(土)

までに事務局(大学)に届くようご返送下さいます

ようお願いいたします。

会 長 黒 崎 勝 吉